

ている。

新古今和歌集一八 公の歌

「つくしにも紫おふる野辺はあれど なき名悲しむ人ぞきこえぬ」

(菜)

(口語訳)

筑紫にも、その名のとおり紫の生える野はあるが、武蔵野と違って、私の「なきな」という草を紫のゆかりとしてあわれみ、悲嘆してくれる人は誰も居ない。(都の人の、一本の紫草から、武蔵野の草のすべてに心が惹かれるという本歌を背景に、都の人から孤立した恨みを、辛く響かせている。)

(田中 陽子)

484 敘意二百韻 (9) 65句から72句

本文

平仄

- |    |       |   |   |   |   |   |   |
|----|-------|---|---|---|---|---|---|
| 65 | 春壘由造化 | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ● |
| 66 | 付度委陶甄 | ● | ● | ● | ○ | ○ | ◎ |
| 67 | 荏苒青陽盡 | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 68 | 清和朱景妍 | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ◎ |
| 69 | 土風須漸漬 | ● | ○ | ○ | ○ | ● | ● |